

源氏物語から考える古典の楽しみ方

R.6.7

A 古典（優れた古典文学）から何を読み取るか

- 1 フィクションの中から真理を見つける。
- 2 今日的なテーマ（主題）を見つける。
- 3 自らの生き方・人生や社会のあり方を考える。
- 4 その時代、その社会の理解を深め、楽しむ。

B 源氏物語の魅力とは何か

1 源氏物語とは

- ・約千年前の平安時代中期（11世紀初頭）にできた長編の物語。天皇四代、70年間を描き、天皇の皇子で臣下に下った光源氏やその子孫たちの物語。作者は紫式部。

2 作者・紫式部

(1) 経歴

(2) 才能とかな文字

(3) 出仕

3 源氏物語の成立

- ・紫式部日記の記述（当代きつての教養人・藤原公任「あなかしこ、このわたりに若紫やさぶらふ。」）から、寛弘5年（1008年）には物語のある程度が完成。その後書き継がれる。

4 源氏物語の読者たち

- ・〈平安時代〉菅原孝標女たかすえのむすめの『更級日記』に見える耽読ぶり。夕顔・浮舟への憧れ。

-- 《世界文学の中で》 --

◎千年前の世界文学にも長編小説、心理小説のこのような長編はない。

- ・ダンテ「神曲」1307 / チョーサー「カンタベリー物語」1393 / シェークスピア「ハムレット」1602 / ゲーテ「若きウェルテルの悩み」1774
- ・今日われわれの読む世界の名作、チェーホフ、トルストイ、ドストエフスキー、ジッド、カフカ、カミュ、ヘッセ、ヘミングウェイなどは19～20世紀。

5 源氏物語のあらすじ

…全編54帖。「桐壺」から「幻」までの41帖は光源氏を中心としたの物語。その後の「匂宮」から「夢浮橋」までの13帖は光源氏の死後、薫などを中心とした物語。

(1) 第一部 (1 桐壺～33 藤裏葉、光源氏1～39歳) …青春の過ちと栄華への道

○主人公の光源氏が若き日の大きな過ちを心に封印し、苦難を乗り越え、多くの愛、栄華・栄誉、権勢を手に入れる。

(2) 第二部 (34 若菜上～41 幻、光39～52歳) …栄華の中の孤独・哀しみ

○光源氏の栄華の中で、若き日の行いの報いとして誰にも言えない大きな出来事が彼に襲いかかり、最愛の紫の上の心も彼から離れていく【新しい物語へ】。

○権力も名誉も多くの女性の愛もすべて手に入れた人間を待ち受けていたのは、深い孤独と哀しみだけだった。

(3) 第三部 (42 匂宮～54 夢浮橋、薫14～28) (45 橋姫～最後…宇治十帖) …叶えられない愛・恋

○光源氏の死後(8年後)、主人公の薫、光源氏の孫・匂宮と宇治の姫君たちとのかなわぬ恋の物語…小粒な主人公たち【現代的作品】。

○男と女の愛のすれ違い。成就しない愛。仏教的色彩が濃い。

6 源氏物語の魅力・おもしろさ

○単なる「プレイボーイの華麗なる恋の遍歴の物語」ではない。

(1) リアリズムと心理描写

(2) 今日的なテーマ…千年を経てもなお、現代のわれわれに、人間の生き方、人生、社会のあり方、人の心や感じ方について共感や示唆を。

①人間が生きるとはどういうことか、人生とは何か…罪と罰、宿命を背負い生きる

②人間にとって大切なものとは何か…富・名声でなく人を深く愛し、愛されること。

③愛するとはどういうことか、愛とは何か…愛に永遠はないか、真実の愛はないか。

④人の心とは何か…心は捉えられぬもの、移ろいやまぬもの。

※時代が移り、社会がどんなに進歩しても、人の心はそう大きくはかわらない。

(3) 主人公・光源氏の人間の大きさ、人間臭さ

○したたかさ、傲慢さ、弱さ、強さ、賢さ、冷淡さ、愛情の深さ、色好みなど。

(4) 個性ある多くの登場人物

○さまざまな登場人物を通じての人間模様、生き方（400人以上の登場人物）

- 【主な登場人物】 -

《女性たち》

○藤壺…光源氏の亡き母への思慕が恋慕に。全篇を通じて光源氏の永遠の女性。

○夕顔…中の品の女性だが、不思議な魅力で源氏をひきつける。某院で物の怪のために死す。

○紫の上…光源氏が一生を通じて最も愛したが、光源氏の行動に悩み、傷つく。

○葵の上…光源氏と結婚した正妻。心が通わず、夕霧を生んで物の怪で死す。

○六条御息所…故東宮の妃。教養があり、自尊心が強い。光源氏との愛が叶わず、光源氏の女性たちに祟り続ける（生霊…夕顔、葵の上。死霊…紫の上、女三の宮）

○明石の君…光源氏と明石で出会う。後に今上帝の中宮となる明石姫君を生むが、紫の上の養子に。子どものために忍耐を重ね、光源氏の栄華を支える女性。

○玉鬘…夕顔の娘。母の死後九州に。成人して上京し、源氏の養女に。多くの貴公子たちが求婚。光源氏も心を寄せるが、結局は鬘黒大将と結婚する。

○女三の宮…朱雀院の第三皇女。光源氏の晩年、朱雀院から懇願され、正妻として迎えることになる。彼女を慕う柏木との間に不義の子。若くして出家。

○宇治の大君…宇治の八の宮の娘。主人公・薫の愛を拒み続け、独身を貫く。

○浮舟…同じく、八の宮の娘。薫と匂宮の間で苦悩。川に身を投げ、やがて出家。

《男性たち》…桐壺帝、光源氏、朱雀院、頭中将、明石の入道、鬘黒、夕霧、柏木、薫、匂宮、惟光など。

(5) 緻密で味わいのある文章

【主な参考図書】

〈注釈書〉

- ・『源氏物語』（新編日本古典文学全集）6巻、阿部秋生他、小学館
- ・『源氏物語』（新日本古典文学大系）5巻、鈴木日出男他、岩波書店
- ・『源氏物語評釈』12巻、玉上琢弥、角川書店

〈現代語訳〉

- ・与謝野晶子、谷崎潤一郎、円地文子、田辺聖子、瀬戸内寂聴、林望、角田光代など

〈入門書〉

- ・『光源氏の一生』池田弥三郎、講談社現代新書
- ・『源氏物語を読む』高木和子、岩波新書
- ・『100分de名著ブックス 紫式部 源氏物語』三田村雅子 NHK出版
- ・『源氏物語～若い人への古典案内～』秋山虔 現代教養文庫
- ・『はじめての源氏物語』鈴木日出男、講談社現代新書
- ・『寂聴と磨く源氏力 全五十四帖一気読み！』百人の源氏物語読会、集英社新書
- ・『源氏物語と女性たち』秋山虔 小学館
- ・『源氏物語の男たち』田辺聖子 講談社文庫

〈作者〉

- ・『紫式部』清水好子 岩波新書
- ・『京都 紫式部のまち～その生涯と源氏物語～』坂井輝久・井上匠 淡交社

※古典、国語を読むための便覧図書

「新訂国語総覧～第4版～」 谷山茂・村井康彦他 京都書房

(注) 本講演の柱は拙著『源氏物語を読んでみよう～紫式部が伝えたかった「大切なこと」～』による。

〈メモ〉

(以上)